

# 統計スポット情報

NO. 145

20. 5. 29

福井県総務部政策統計課

## — 自動車大国ふくい ～自動車に依存する県民生活の実態～ —

- \* 福井県の世帯あたりの自動車保有台数は約 1.8 台で、全国一位となっています。人口当たりの順位でも上位に位置しています。
- \* 県の調査によると、都市部における県民の移動手段の 4 分の 3 は自動車によるものとなっています。

福井県は、家庭における自動車の保有台数が全国的に非常に高い県で、自動車はまさに県民に不可欠の足として機能しています。

しかし、環境問題や高齢化社会の到来などの問題に直面する現代社会においては、これから交通弱者に配慮した安全で快適な社会の実現に向けて、公共交通機関の活用を含め、自動車の利用のあり方を考えていかなければなりません。

そこで、今回は自動車に関わる統計をまとめてみました。



### 【自動車の普及状況】

○都道府県別の自家用乗用車の普及状況〔世帯・人口あたり順位〕（平成 19 年 3 月末現在）

#### 【世帯あたり順位】

順位	都道府県	一世帯あたり保有台数
1	福井県	1.766
2	富山県	1.734
3	群馬県	1.695
4	岐阜県	1.693
5	山形県	1.659
6	栃木県	1.653
7	茨城県	1.633
8	長野県	1.601
9	山梨県	1.555
10	新潟県	1.544
46	大阪府	0.719
47	東京都	0.521

#### 【人口あたり順位】

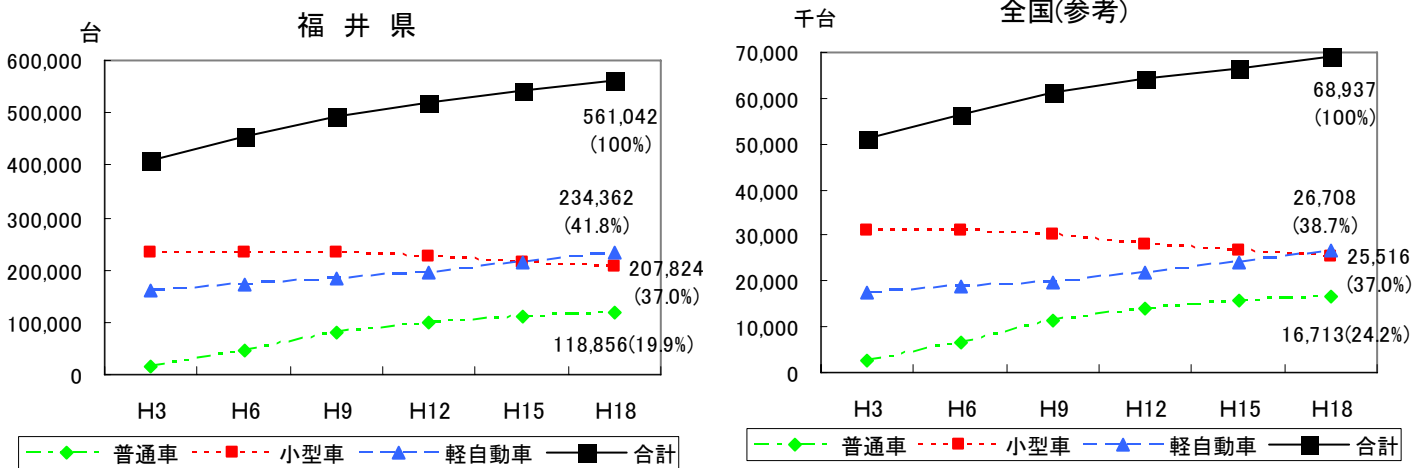
順位	都道府県	1,000 人あたり保有台数
1	群馬県	626.6
2	栃木県	602.0
3	富山県	593.0
4	茨城県	590.4
5	長野県	585.3
6	岐阜県	584.1
7	山梨県	583.2
8	福井県	576.1
9	三重県	566.6
10	石川県	561.6
46	大阪府	313.7
47	東京都	255.6

※乗用車とは、普通乗用車(3ナンバー)、小型乗用車及び軽乗用車をさす。

資料：(財)自動車検査登録情報協会

自動車の保有台数は本県のみならず全国的に増加傾向にあり、中でも軽自動車と3ナンバーの普通車の保有が増加し、従来、割合の高かった小型車の台数は減少傾向にあるようです。しかし、最近では人口減少の影響などから、保有台数についても減少の動きがでているようです。

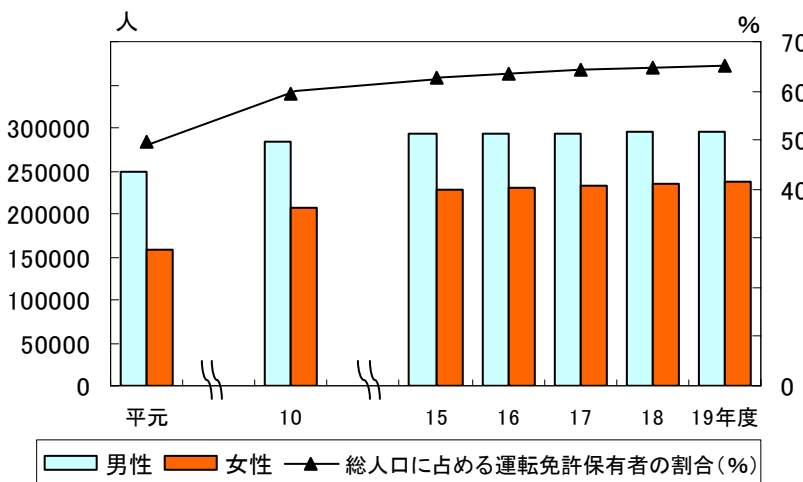
### ○自動車の保有状況



※普通車…3ナンバーの車、小型車…5、7、4ナンバーの車

資料：国土交通省

### ○運転免許保有者数の推移



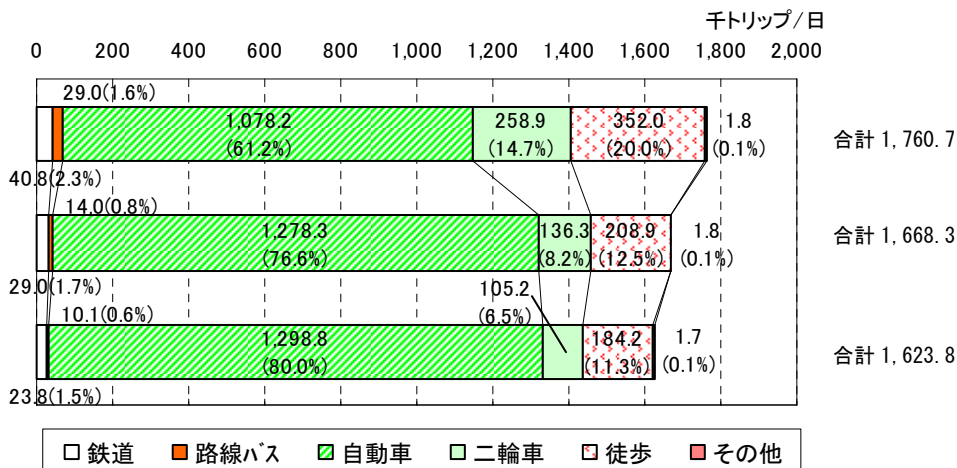
近年、人口は減少しているものの、高齢者の増加に伴い、運転免許を保有する人の数は、わずかずつですが、増加傾向にあります。特に過去と比べると、女性の保有者が増えているようです。

資料：福井県警察本部

### 【生活と自動車】(平成17年福井都市圏パーソントリップ調査より)



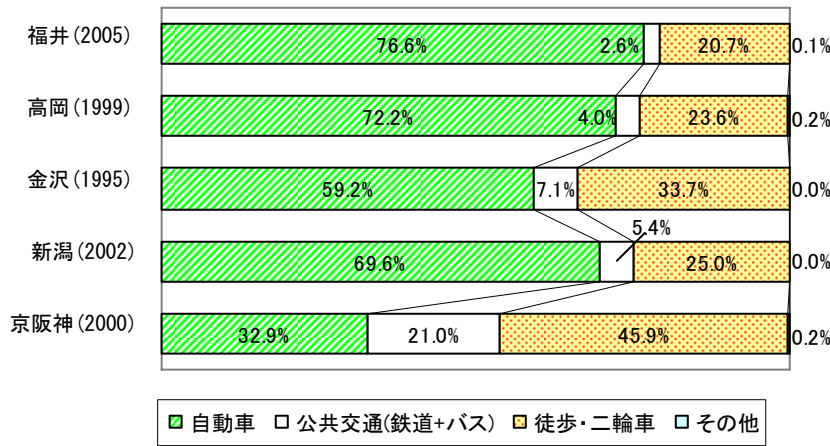
### ○代表交通手段別のトリップ数の推移・見通し



福井都市圏では、「いつ」「どこから」「どこまで」「どのような人が」「どのような目的で」「どのような交通手段を利用した」動いたのかを調べるために、平成17年10月から11月にかけて第3回福井都市圏パーソントリップ調査（交通実態調査）を実施しています（第1回：昭和52年。第2回：平成元年）。この調査からも、県民の自動車への依存度の高さが伺われます。

「トリップ(Trip)」…人または車両がある目的(出勤、買い物など)をもって起点から終点に移動する場合の移動を表す概念であり、移動を定量的に表現する際の単位

○他の都市圏との代表交通手段別の比較（構成比）



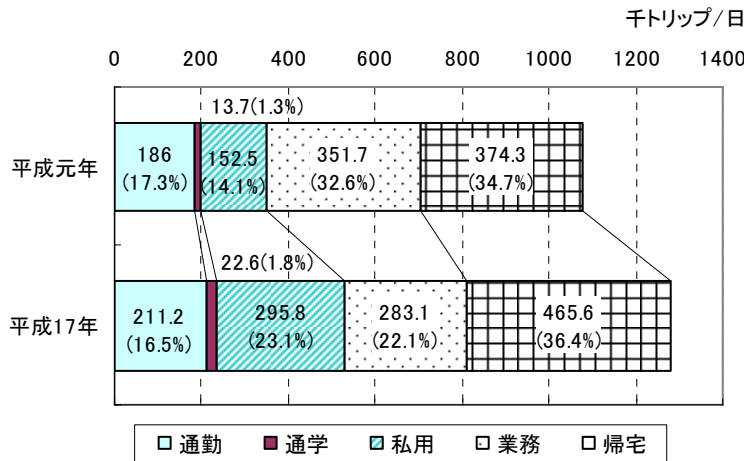
※本調査は、各都市において、15年周期で行われているものです。

この調査によると、県民の移動手段の8割近くが自動車になっています。

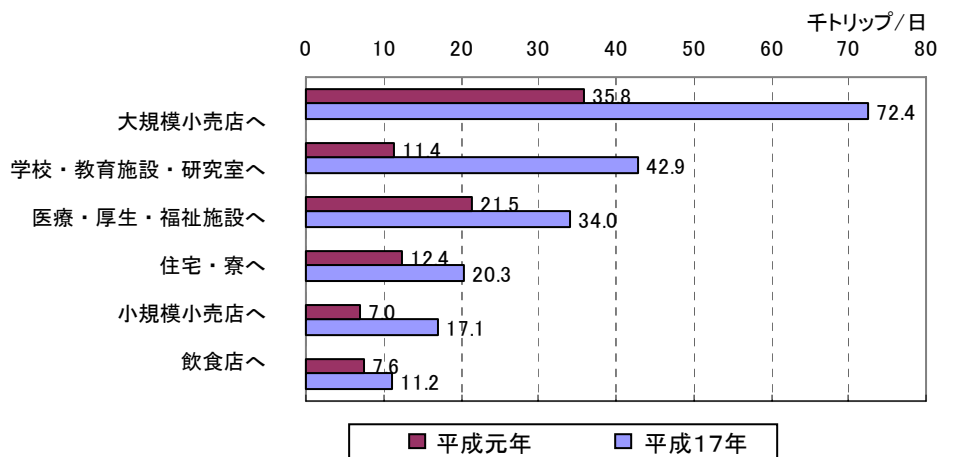
近隣県と比較しても本県都市圏における自動車の利用のウェイトは高く、この傾向はさらに強まる可能性もあるようです。

特に近年は、郊外の大規模小売店舗への買い物や、学校や塾に行く子供の送迎等で、自動車の利用が増えているようです。

○目的別の自動車トリップ数の推移

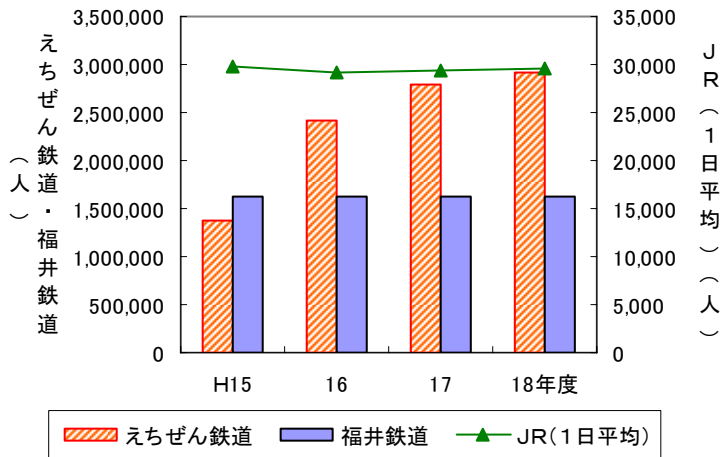


○自動車による私用目的のトリップ数の推移



## 【公共交通機関と自動車】

### ○公共交通機関の利用状況

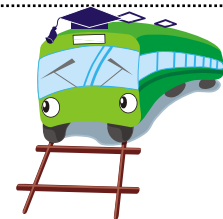


※JRは1日平均。えちぜん鉄道、福井鉄道は年度全体の乗車人員  
えちぜん鉄道は平成15年7月から運行開始

県内の鉄道の利用状況を見ると、えちぜん鉄道は利用者が増加する傾向にあるものの、JRや福井鉄道はおおむね横ばいで推移しています。

今年から、県では、毎月第2・第4金曜日を「カー・セーブデー」に設定し、過度なクルマの利用を見直す運動を進めています。皆さんはクルマに依存しすぎた生活を送っていないでしょうか。

地球環境の保全のため、公共交通機関や自転車の利用に努めましょう。



## 【環境と自動車】

### ○二酸化炭素の排出実態

年度	排出量(千t-CO <sub>2</sub> )		増減率
	H2	H17	H17/H2
産業	4,134	3,766	△8.9%
家庭	903	1,199	+32.8%
業務	728	1,152	+58.2%
自動車	1,422	1,805	+26.9%
鉄道等	65	77	+18.5%
その他	1,023	859	△16.0%
全体	8,275	8,858	+7.0%

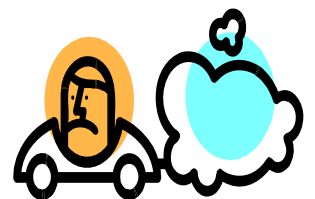
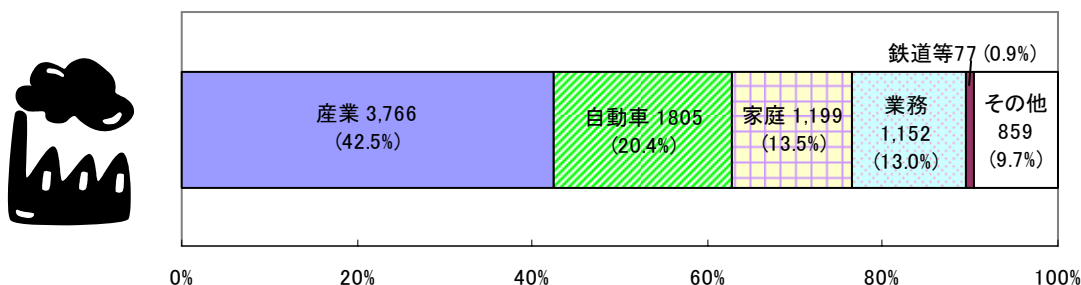
※業務…業務用ビル等におけるエネルギー消費

平成17年度の二酸化炭素排出量の約20%は自動車によるものとなっています。

また、平成17年度の排出量は、平成2年と比較して、全体では7.0%増であるのに対し、自動車による排出量は、26.9%増と大きく増加しています。これは、自動車の保有台数や運転免許保有者が増え、自動車の利用が増えていることなどが影響していると思われます。

自動車等による排気ガスの抑制は、地球温暖化対策の推進における大きな課題の一つに位置づけられます。

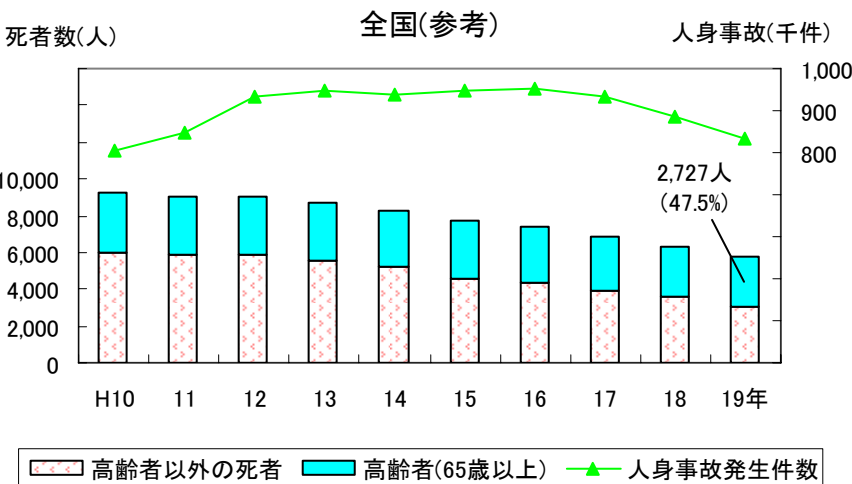
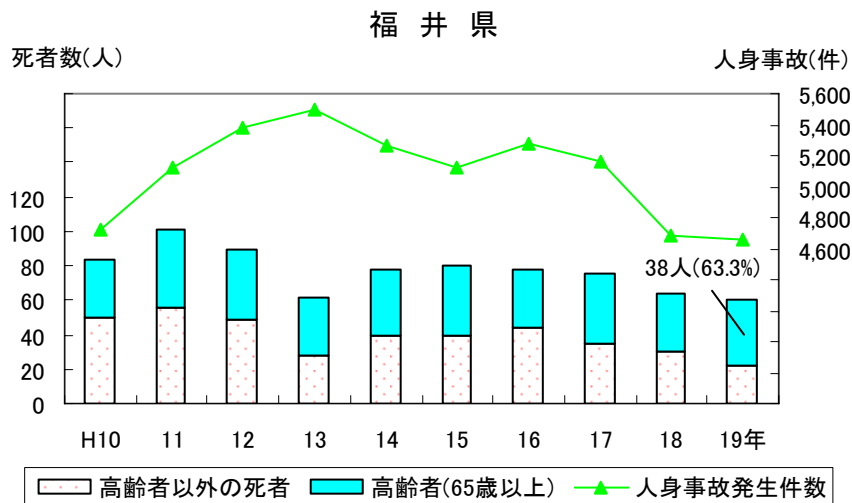
### ○二酸化炭素排出量全体のうち自動車の占める割合(17年度)(千t-CO<sub>2</sub>)



資料：安全環境部環境政策課

## 【交通事故と自動車】

### ○人身事故発生件数と死者数の推移

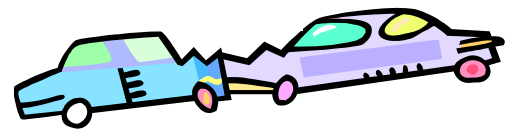


資料：福井県警察本部

県内の交通事故の発生件数や死傷者の数は、最近では減少傾向にあるようですが、自動車を利用する方が増加傾向にある中、県内の交通環境は、特に子供や高齢者などの交通弱者にとって、厳しくなっていると思われます。

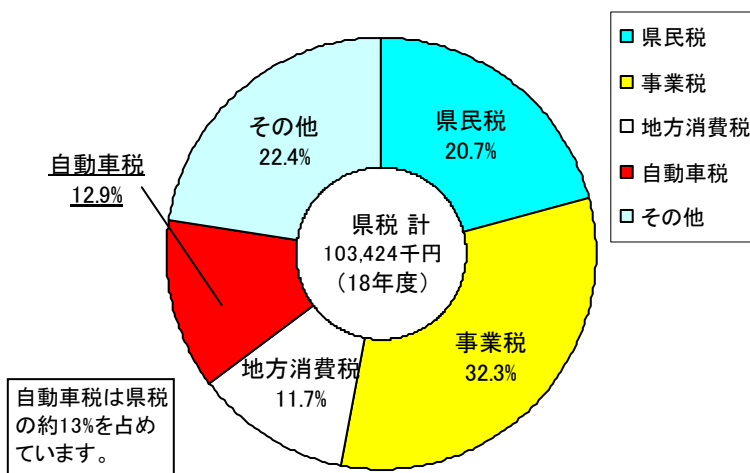
警察本部の調査によると、高齢者の方が被害にあわれる割合が全国的にも高くなっているということです。

車を利用する方には、交通ルールを守り、一層安全運転に努めることが求められています。



## 【税金と自動車】

### ○県税に占める自動車税の割合



資料：福井県税務統計書

自動車税は、県税全体の約13%を占める大切な財源です。

今は、自動車税の納入時期にあたります。まだ納入されていない方は、早めに手続きを済ませていただきますようお願いします。

## 【参考:国内人気車種ベスト10】

いつの時代も比較的手ごろな値段で購入できる小型車に人気は集まるようです。  
しかし一方で、家族がゆったり乗車できる大型車なども根強い人気があるようです。

1998年

	ブランド名(メーカー)
1	カローラ(トヨタ)
2	キューブ(日産)
3	デミオ(マツダ)
4	マーチ(日産)
5	スターレット(トヨタ)
6	ステップワゴン(ホンダ)
7	マークII(トヨタ)
8	クラウン(トヨタ)
9	グランディス(三菱)
10	サニー(日産)

2001年

	ブランド名(メーカー)
1	カローラ(トヨタ)
2	ヴィッツ(トヨタ)
3	ストリーム(ホンダ)
4	エスティマ(トヨタ)
5	ステップワゴン(ホンダ)
6	フィット(ホンダ)
7	クラウン(トヨタ)
8	キューブ(日産)
9	オデッセイ(ホンダ)
10	ファンカーゴ(トヨタ)

2004年

	ブランド名(メーカー)
1	カローラ(トヨタ)
2	フィット(ホンダ)
3	キューブ(日産)
4	ウィッシュ(トヨタ)
5	クラウン(トヨタ)
6	マーチ(日産)
7	オデッセイ(ホンダ)
8	イスト(トヨタ)
9	アルファード(トヨタ)
10	ノア(トヨタ)

2007年

	ブランド名(メーカー)
1	カローラ(トヨタ)
2	ヴィッツ(トヨタ)
3	フィット(ホンダ)
4	パッソ(トヨタ)
5	セレナ(日産)
6	エスティマ(トヨタ)
7	ヴォクシー(トヨタ)
8	デミオ(マツダ)
9	ティーダ(日産)
10	ノア(トヨタ)

資料:(社)日本自動車販売協会連合会 新車乗用車販売台数ランキング(輸入車、軽自動車を除く。)

この資料内容の照会は政策統計課産業統計グループ(電話 0776-20-0272)へご連絡ください。